



高永山本門寺のむかし話

大坊あかずの門と三位さん
さんみ

大坊の山門を入ったところに三位さんと呼ぶ石塔がありま
す。三位さんとは、正親町三位三条実蔭（讃岐佐）のこと
で、この人が住んでいた屋敷跡が大坊の境内で、八町（八万
平方メートル）あったと古老は言います。この三位さんに
「南無妙法蓮華經」と題目を唱えて拝み、その線香の灰を
いぼに塗ると、いぼが取れると言われています。この古塔を
転法輪三位大菩薩という人もいます。実蔭は正親町三条家の
祖三条公氏（実房の嫡男）の子、閑院正三位行参議でした。
大坊と三条家は深いえにしの糸で結ばれていたようです。
大坊は三条実蔭の屋敷跡で、その菩提寺でもあるので、正三
位の位を授かり、そのため大坊の上人は駕籠に乗ることを許
され、駕籠に乗ったまままで普通寺の大門や関所なども素通り
できたと言われています。

この山門は通称「あかずの門」と言われています。乙田山
騷動の時、大坊の上人や、中の坊十一代安住院日観上人の激
励鞭撻により、村民は協力して行動しました。その結果、乙
田山が三等分され、山が少なく、薪や下草の不足で悩んで来
た下高瀬にも配分されたので、喜びかつ感激した村民がこの
山門を寄付しました。ところが、当時は京極家多度津藩の大
門より規模が大きかったため、これを見た藩主が驚いて、
「この山門は寺に過ぎた門である。故に特別の行事のない平
時は決して開けてはならない」と命じました。以後、仰せの
通りにしたので、あかずの門と呼ぶようになりました。

また、大坊本堂の敷地は、周辺の地より一段高いといいま
す。これは本堂構築に際し、法華講中の信者たちが前掛けや
風呂敷に土砂を入れて運び、土地を高くしたためだと言われ
ています。



高永山本門寺 山門



三条実蔭公 墓所